

学習内容報告書 フォーマット

学校名	下関市立養治小学校
授業者	福田真也・村重仁美

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海の豊かさをいつまでも ～関門海峡の生物調査～

1-2. 学年

3・4年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

まず、3・4年生合同で、これまでの学びを交流する活動を通して、関門海峡で自分たちが学びたいことや知りたいことを互いに確認し伝え合う機会を取る。3年生は、生活科での学びから、壇之浦漁港の場所、壇之浦漁協の漁師さんに手紙を渡した経験、町探検の経験などをプレゼンテーションする。4年生は、3年生の時にこども学芸員になった経験をプレゼンテーションする。その中で、3年生は、漁師さんに聞いた不思議な魚の話を4年生に伝える。話を聞いた4年生は、どんな魚なのか興味をもつと同時に、海響館の学芸員さんから請け負っているミッションについて思い出し伝える。この伝え合いによって、互に関門海峡の環境はどうであるのかや生物を調べていくためにどうすればよいのかを、共に模索し始める。

調査を実行するために必要なものを調べる中で、海に入るにはライフジャケットが必要であることに気付いた子供たちは、ペットボトルでライフジャケットを作ることを思いつき、実際にプールでペットボトルライフジャケットの浮力実験を行う。釣り竿などの持ち物についても、順次調べ、家庭から準備できるものはないか、学校で購入を依頼できないか、釣り調査を手伝える大人はいないかなどを考える。

3年生が実際に出会った漁師さんに会いたいと、3・4年生で漁師さんへ電話で交渉をすると、漁師さんが学校へ来てくださることになった。漁師さんは、「海の話」と題し、関門海峡で実際にとれる魚の話や、尊い命を守りながら漁を続けていること、漁の厳しさや海の豊かさ、神秘について話をしてくれる。子供たちは関門海峡の生物への思いや、漁師さんや海への畏敬の気持ちをさらにふくらませる。

ライフジャケットや釣り竿など必要な道具を実際に購入したり自宅から準備したりした子供たちは、漁師さんや保護者ボランティアのサポートのもと、巖流島でのつり調査を行う。えさやしかけについて事前に調べたり、父親につりについてきてくれないか交渉したりする子供も出てきた。実際に、晴天の中、巖流島での生物調査（釣り調査）を行うことができた。そこで子どもたちは、様々な魚や海洋ゴミ、イソガニなどに出会い、関門海峡の環境について身をもって考える。

4年生は、釣り調査の報告の海響館の学芸員さん相手に行く。また、3年生は持ち帰ったイソガニの飼育

を始めたり、これをきっかけにして知った海の生き物のことを調べたりする。また、イソガニの死滅や脱皮、成長を、お世話を通して身をもって体験する中で、子供たちは海の命の尊さと豊かさを実感する。3年生から年度初めに聞いた「不思議な魚の話」をいつも頭の片隅におきながら、今もなお関門海峡の生物の神秘に思いを馳せる子供たちである。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校区にある関門海峡が有する海洋環境に向き合い、その豊かさを子供たちが体感するとともに、活動で感じた様々な課題に対して仲間とともに生み出した問いの解決に向けて切実な願いや思いをもって、様々な人や関係機関と関わる中で、関門海峡にすむ生き物の魅力を感じるだけではなく、海洋環境や海洋資源を守るために今できることを考え実践する子供の育成をめざすことをねらいとしている。

1-6. 育みたい資質や能力、態度


<知識・理解・技能>磯遊びや魚釣り、生物の飼育を通して、命の尊さや海の豊かさ、環境の影響を実感をもって知ることができる。


<思考・判断・表現>漁業関係者や地域の人、観光客や海響館の学芸員などを対象にインタビューや講話を通して関わる場をもつほか、海岸や市場への実地調査を行い、ICT機器や学習支援アプリの思考ツールなどを利活用して収集した知識を効率的に整理・分析して、その結果を新聞やポスター、スピーチ原稿などにまとめて地域や保護者、児童相互に対して発表や交流をすることができる。

<学びに向かう力>

身近な友達だけではなく地域や学校の人、漁業を知らない人へも、海のすばらしさを伝え、自分にできることは何かを考えることができる。

1-7. 単元の展開 (全40時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
6	<p>◆3・4年生で海のことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生による海響館訪問（関門海峡の生物調査のミッションを知る） ・3・4年生合同で「海に関する経験」の伝え合い 	<p>○前学年で学習した「海に関する経験」を伝え合うために、学習支援アプリなどを利活用してプレゼンテーションを作成させ、表現させる。(知識・理解) (3・4年)</p> <p>・海響館の学芸員さんからの生物調査のミッションの内容を理解している。(知識・理解)</p> <p><外部連携>海響館</p> <p><使用教材>タブレット端末</p> 
8	<p>◆生物調査に必要なものは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海的环境についての調べ学習 ・「なぞの魚」にまつわる調べ学習 ・つりの方法についての調べ学習 ・海の安全についての調べ学習 ・海洋ゴミについての調べ学習 	<p>○調べ学習の方法や書籍の選び方について学校司書とともに指導する。また、インタビューなどの方法やそれを記録することの大切さを指導する。</p> <p>・インターネットや中央図書館の書籍、身近な人へのインタビューなどを通して、自分達の力で生物調査に必要なものは何かを考え、レポートなどに</p>

		<p>まとめて伝え合うことができる。(思考・判断・表現)(3・4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海的环境や、釣りの方法、海洋ゴミなどについての基本的な情報を理解している。(知識・理解)(3・4年) <p><外部連携> 下関市立中央図書館・海響館 <使用教材> 海に関する本(団体貸し出し) 電子メール(学芸員さんへの質問)</p>
4	<p>◆ペットボトルライフジャケットの浮力実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海的安全について知る。 ・ペットボトルライフジャケットの作り方について知ることができる。 ・プールでの浮力実験を実際に行う。 	<p>○海的安全についての知識を伝え、ルールを守りながら着衣水泳およびライフジャケットの浮力実験を行い、気づきを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海的安全についての知識を深める中で、海でどのように命を守るか考え、実践することができる。(思考・判断・表現)(3・4年) <p><外部連携> 下関市立中央図書館 <使用教材> 海に関する本(海的安全) ペットボトル、釣り竿、ライフジャケット(着衣泳用)</p>
8	<p>◆釣り調査の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巖流島でのつり調査の準備を行う。 ・漁師さんへ協力を求める電話をする。 	<p>○道具の使い方や、情報の収集の仕方について指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巖流島での実際の釣り調査について、漁師さんに電話で協力を求めたり、保護者に協力を求めたりすることができる。(思考・判断・表現) ・グループの友達と相談しながら必要なものを準備したり、実際に協力して釣り調査を行ったりすることができる。(思考・判断・表現) <p><外部連携> 壇之浦漁協 漁師の方々 海上保安庁の方々 関門汽船 下関市観光政策課 下関市港湾局 <使用教材> 釣り竿、ライフジャケット、バケツ、タオル、クーラーボックス、魚のえさなど</p>
6	<p>◆関門海峡の生物調査～巖流島へ行こう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上保安庁の方が海的安全を守ってくれていることに気付く。 ・安全に活動することの大切さに気付く。 ・釣りによる生物調査を実際に行う。 ・海洋ゴミの実態を知る。 ・漁師さんと関わってつりの技術について伝授 	<p>○海上保安庁の方の話を共に聞き、海的安全について考えながら活動することを伝える。</p> <p>○グループで協力することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながらつり調査を行い、海の生き物と触れ合うことができる。(3・4年)(思考・判断・表現) ・海的环境(潮の満ち引き・海の生物・海洋ゴミ)

	<p>してもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯遊びを通して命の豊かさを知る。 ・潮の満ち引きや生き物の豊かさなどの環境の豊かさに気付く。 ・稚魚を海へ返す大切さに気付くことができる。  	<p>などについて、巖流島の環境を実際に見ながら気付くことができる。(3・4年)</p> <p>(知識・理解・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんや保護者ボランティアの方々と切実な思いをもってかかわり、つりの仕方や、生き物の豊かさなどに気付くことができる。(3・4年) <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境ゴミや釣れた魚などを見て、稚魚を海へ返すことの大切さに気付いたり、自分から進んでゴミ拾いをしたりすることができる。(3・4年) <p>(学びに向かう力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の状況に応じて友達と声を掛け合い、楽しみながら活動することができる。(3・4年) <p>(学びに向かう力)</p> <p><外部連携> 壇之浦漁協 漁師の方々 海上保安庁の方々 関門汽船 下関市観光政策課 下関市港湾局</p> <p><使用教材> 釣り竿、ライフジャケット、バケツ、タオル、クーラーボックス、魚のえさなど</p>
6	<p>◆生物調査のまとめをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巖流島で釣れた魚や、海の豊かさについてまとめる。 ・巖流島で知ったことをもとに、さらに進んで調べ学習をする。 ・調べてまとめたことを、他校の友達や、水族館の学芸員さんに伝えることができる。 	<p>○情報のまとめ方、発表の仕方について、グループや学年の気付きを互いに交流させながら指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器などを利活用し、自分達が知ったことや体験したこと、思ったことを、相手を意識しながらまとめ、伝えることができる。 <p>(思考・判断・表現)</p> <p><外部連携> 海響館 柳井市立伊陸小学校</p> <p><使用教材> タブレット端末 パソコン オンライン交流用アプリ</p>
2	<p>◆発展学習をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巖流島で釣れた魚や、海の環境について知ったことで、さらに調べてみたいこと進んで調べ、まとめている。 ・巖流島で出会ったイソガニを実際に飼育して 	<p>○さらに調べてみたいことをまとめさせたり、質問事項をまとめて海響館と電話やEメールでやりとりできる環境を整えたりする。</p> <p>○イソガニの飼育で気付いたことを互いに交流させながら、必要なことを調べたり、実際にお世話を</p>

みることを通して、命の大切さに気付く。



することができるように支援したりしていく。

- ・知りたいことを自ら進んで調べたり、伝え合ったりすることができる。(学びに向かう力)
- ・イソガニの飼育には何が必要か考え、エサやすみかななどを工夫して作ったり、学芸員さんに必要な情報を尋ねたりすることができる。

(思考・判断・表現)

<外部連携>海響館

<使用教材>タブレット端末・エサ・人工海水・エアポンプ・バケツなど

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

3・4年生が集い、これまでの学びを伝え合い交流する活動を通して、関門海峡で自分達が学びたいことや知りたいことに気付くことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 4年生が昨年度、こども学芸員として学んできたことを伝える。</p> <p style="padding-left: 20px;">＜4年生の発表内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フグの毒などについて ・ペンギンの生態や、学芸員さんの飼育の苦労について ・フグちょうちんや、フグの身欠きなどについて <p>2 3年生が昨年度、町探検で行ってきた経験について伝える。</p> <p style="padding-left: 20px;">＜3年生の発表内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壇之浦漁港の位置 ・漁師さんから聞いた不思議な魚の話 ・町探検で歩いた海沿いの様子 <p>3 互いに疑問に思ったことや感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども学芸員ってすごいな。 ・不思議な魚、自分たちもつかまえてみたいな。 ・漁師さんはどんな人なんだろう。 ・海響館からのミッション「関門海峡の生物調査」を思い出した。 ・一緒に関門海峡を調査しに行こう。 <p>4 学習を振り返り、次の学習への期待をふくらませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関門海峡の生物調査をやってみたい。 	<p>○自分たちの力でプレゼンテーションができるように、ICT 機器の操作や情報の示し方などを指導する。</p> <p>○発表が心から伝わるものであるように、家庭でしっかりと練習してくることを指導する。</p> <p>○発表内容をよく聞いてメモし、疑問に思ったことは質問できるように指導する。</p> <p>・互いの学年の発表内容を理解し、疑問に思ったことを質問しようとする事ができている。 (思考・判断・表現)</p>

2-1. 単元における位置づけ

単元 40 時間中の 16 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

ペットボトルライフジャケットの浮力実験を実際にプールで行ってみることを通して、水の事故を防ぐための大切さと大変さを理解し、どのように水中で行動するべきかを考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 教師の指示を聞き、水の事故を防ぐための方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備体操をする。 ・水の事故を防ぐためには「浮いて待つ」が最も大切であること ・入水のルール ・遊びではないこと ・グループ単位での活動 (全員が同時に入るのではなく、グループの中で順に入水し、入水をしていない者が入水者の安全を確認しながら、プールサイドから記録を行う。) <p>2 ペットボトルライフジャケットの浮力実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着衣して水へ入ると大変動きにくい。 ・ペットボトルは、上手に使いえば1本で浮くことができる。 ・本物のライフジャケットは浮力が強い。 ・力を抜いて水に浮くことは大変だ。 ・水の中で命を守ることは簡単ではない。 <p>3 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巖流島に行くときには、安全に気を付けよう。 ・夏休みに海に行く時には、事故に遭わないようにしましょう。 ・海で働いている人は本当にすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「浮いてまつ」ことを事前資料で学習させておき、着衣して入水する方法などについても調べて準備をさせておく。 ○実験の方法を確認し、結果をタブレット端末やワークシートに記入させるようにする。 ○事前に自分達で作ったライフジャケットを準備しておき、どのように浮くかも考えさせておく。 ○児童の安全を見守りつつ、実験する姿を観察する。 ○実際の海は海水温が低かったり、波があったりすることを想像させ、海で命を守ることがいかに大変であるかに気付かせる。 ・実際に浮力実験を行うことで、海で命を守ることの大変さと大切さに気付くことができる。 (思考・判断・表現) ○口頭で発表させるだけではなく、次の学習へつなげるように、タブレット端末やワークシートに感想を記入させる。

2-1. 単元における位置づけ

単元 40 時間中の 27 時間目

2-2. 本時の目標

巖流島での釣り体験による生物調査において、関門海峡の生物の豊富さや、潮の満ち引き、海洋ゴミの事などを身近に感じるとともに、漁師さんや保護者ボランティア、これらの自然環境や生物と切実な思いをもって関わることを通し、自分たちには何が必要かを考え、行動することができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 諸注意、活動の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上保安庁の方の話を聞く。 ・タイムスケジュールや用具の置き方、使い方を確認する。 ・漁師さんへ挨拶をする。 	<p>○多くの方々の協力を得てこの活動ができることや、グループで協力することの大切さについて確認する。</p>
<p>2 関門海峡つり調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんへエサやしかけの使い方を聞くこと。 ・釣れた魚の種類を考えること。 ・どのようにしたらよく釣れるか考えること。 ・潮の流れを感じる。 	<p>○途中で出たゴミの始末や、環境への関わり方、礼儀などについて、必要に応じて考えさせ、気付かせる。</p> <p>○生き物をよく観察させ、海の豊かさに気付かせる。</p>
<p>3 人工海岸での磯遊びや、護岸周辺の海洋ゴミ集めなど思い思いに自然に関わって活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イソガニやカニダマシがいること。 ・ヤドカリなどがいること。 ・生物の死骸などに気付く。 ・潮の満ち引きに気付く。 	<p>○自然環境に五感や身体全体を使ってかかわり、気付いたことを観察や対話を通して言葉に表出させるようにする。</p> <p>・巖流島の自然環境などに切実な思いをもって関わることを通して、自分にできることは何か考えることができている。(思考・判断・表現)</p>
<p>4 後片付けをして汽船に乗り、本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して活動することができた。 ・巖流島の自然はすばらしい。 ・海の生き物は豊かだ。 ・環境を守っていこう。 	

3. 今回の活動の自己評価

- ・ 壇之浦漁協の漁師さんが実際に漁船で応援に来てくださり、子供たちはそれを見ることで、海に関わり命を守り継ぎながら働くことの尊さを実感することができた。この経験が、子供たちの心に強く響き、後の子供たちの学習意欲を支え続けた。
- ・ 巖流島の環境はとても活動に適していた。子供たちがつりをするのに十分な広さがあることや、林や草原、人工海岸には磯があり、釣りをするだけではなく、海洋ゴミを拾ったり、磯遊びをしたりできたことで子供たちは身をもって自然に関わり、多くの気づきを得ることができた。
- ・ 1年間を通し、3・4年生で伝え合いながら活動することでお互いに刺激し合い、共に気づきを深めたり、学び合ったりする場面が多く見られた。
- ・ 子供たちは ICT 機器や学校図書館、下関市立中央図書館、学校司書、中央図書館の司書、海響館の学芸員と連携することによって、情報活用能力が身に付いた。切実な思いを常に持っていたため、調べたい情報がいつも明確にあり、レポートやプレゼンテーションなどの成果物を見ると、整理力や分析力、表現力も高まったと感じている。
- ・ 単元を通して、様々な表現活動（作文、レポート、発表など）を発信する動機づけができ、様々な人へ関わることを繰り返すうちに、コミュニケーション能力が高まった。
- ・ 市外の学校や、地域の行事でも学びの成果を発表することができ、学びに向かう力が高まった。また、市外の学校では、関門海峡とは異なる海の学習の成果を聞くことができ、大変刺激になった。

3. 今後の課題

- ・ 壇之浦漁協の漁師と教職員がやり取りする中で、「磯で遊ぶなら春が良い」「季節によって釣れる魚は違う」などということが分かった。年度途中から釣り調査の計画をやっていったため、秋以降の実施になってしまったが、季節による海の環境や生物の違いなどに気付くためには、シーズンごとの調査が有効なのではないかと感じている。
- ・ 保護者会を通して、海洋教育の意義を詳しく伝えると、子供たちの変容や成長と家庭での子供の言動が結びつき、海洋教育の意義に感銘を受ける保護者の方々が多く見られたため、担任一同、教育活動の意義を年度初めからしっかりと伝え、協力がさらに得られる体制を整えていきたい。

4. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト